

平成30年度 全国学力・学習状況調査より

【1】調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。また、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。

【2】調査実施日・対象学年

平成30年4月17日（火） 第6学年

【3】調査の内容

① 教科に関する調査（国語、算数、理科）

【国語A・算数A】 主として「知識」に関する問題

【国語B・算数B】 主として「活用」に関する問題

【理科】 主として「知識」に関する問題、一部「活用」に関する問題

② 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

【4】結果分析するにあたっての留意事項

1. 分析結果は、児童・生徒の今後の学習指導の改善に活かしていく。
2. 学校・家庭・地域が課題を共有し改善につなげていく。

《結果より》

[学習状況について]

児童質問紙への子どもたちの回答から、自己肯定感が高く、授業に意欲的に取り組む姿が見られます。質問紙の中にある話し合いで考えを深めたり、広げたりする活動では意識が高く、本校で続けて取り組んでいる研究テーマ『自分の思いや考えを持ち、伝え合うことのできる子どもの育成～ペアで・グループで・みんなで、話し合う力を育てる～』が浸透してきていると考えられます。

[国語科について]

A問題に関しては、全国・大阪府ともより、正答率で上回っている問題が多く、基本的な力は定着しつつあると考えられます。

B問題の『書く』ことの観点では、全国・大阪府とも上回っており、校内研究の中心課題のひとつとなる『自分の意見、考えを持ち、書くための指導の検討』の成果だと考えられます。しかしながら、特にB問題に関しては、無回答率が高く、大阪府平均より1ポイント下回ってしま

いました。

本年度の傾向として、あきらめずに問題に取り組むこと、また、問題の意味をとらえて考える力が弱いと考えられます。

[算数科について]

A問題の正答率は、大阪府平均とほぼ同じでした。しかし、B問題に関しては、大阪府平均を4ポイント下回ってしまいました。中でも、円周率の意味や直径と円周の関係についての理解が課題でした。

児童質問紙の中で、「算数の授業で勉強したことは、将来、社会にでたときに役立つ」と思っている児童が多く(+15.2)、算数の学習を生活に活かそうという意欲が感じられます。しかしながら、「算数の問題の解き方がわからないときはあきらめずにいろいろな方法を考えますか」では、否定的な意見が高く、国語と同様にあきらめずに問題に取り組む意欲が低いと考えられます。

[理科について]

全国・大阪府の平均よりも、正答率では下回ってしまいました。

内容では「土地の侵食」「ろ過の適切な操作方法」に関する問題が、全国・大阪府平均よりもかなり下回ってしまいました。

しかし、理科の勉強は「好き・大切・よくわかる」と肯定的に考えている児童が多いことが、児童質問紙の回答からもわかります。正答率につながっていませんので、十分に定着していない可能性が考えられます。

[今後の取り組みとして]

国語Bや算数科で、無回答率が高かったことを重く受け止め、自分の考えをしっかりと書く時間の確保や、書きたくなるような課題提示の仕方についてや、できた時の充実感を感じるような機会を多く設けるなど、自分の考えをもつことに意欲を持つよう、再度力を注いでいきたい。

中でも、算数で、自分なりの解き方を友達どうして伝え合う機会を、今後も意識的に増やしていきます。

さらに、授業の終わりにはふりかえりの時間を設け、わかったことを自分の言葉で書く活動を続けていますが、さらに意識的に取り組ませます。

家庭学習では、これまで同様、自分で学習内容を決める自主勉強に取り組ませます。自分にとって必要な学習を選択し、意欲をもって学習に取り組めるようにしています。また、授業などで予習や復習をすることの良さを実感できる機会を増やしていきます。